来館者の増加に向けた取組について

１　背景

・図書館の来館者は、平成１５年度の４１万人をピークに減少し続け、令和４年度には２０万人にまで落ち込んでいる。
・ここ数年の減少にはコロナの影響もあったと思われるが、コロナ後もコロナ前の状態に戻るまでには至っていない。
・来館者数に表れない利用もあり、単純に来館者数のみをもって論じることはできないが、ピークの半数に落ち込み、減少し続けていることは大きな問題である。
・図書館ではこれまでも来館者や利用者の増加を図るべく様々な取組を行ってきたが、顕著な効果は上がっていないため、本協議会での意見を踏まえ、対策を講じていきたい。

２　現状分析

（１）原因の推察

【統計、客観的事実】
・人口減に伴う自然減、耐震工事による閉館、コロナ禍における外出自粛

【その他】
・インターネット、スマートフォン等の普及。活字離れ。余暇の過ごし方の多様化。

（２）分析（別添資料を参照）

※来館者の年齢は確認できないため、貸出対象者の年齢で分析
※当館の主な来館者である鳥取市の年齢別人口推移と比較

・中学生未満の一人当たり貸出冊数は、コロナ前に比べて増えているが、高校生から７０歳未満までが減少している。
・天井工事や県内のコロナ感染者増大の際に来館者が減り、工事終了後やコロナ感染の減速後も元の数字に戻っていない。

３　検討

（１）対策の対象範囲（絞るか否か）

⇒　可能であれば、考え得る対策を幅広く行えば、効果を得られる可能性は高まるが、その分予算も人手もかかることになる。現員の増加が見込めない中、多くの対策を行うことは困難であるため、対象を絞って効果的な対策を行うこととしたい。

（２）対象をどこに絞るか

⇒　どこに集中すれば効果的かを考えた場合、増加しているところより減少しているところであると思われるため、高校生から７０歳未満までの年齢層をメインターゲットとした対策を検討してはどうかと考える。ただし、高校生については、当館からの個人貸出のほかに学校図書館を通じた貸出が定着していることから対象から除外しても良いと思われる。

なお、増加が見られる若年層については、現在の取組を充実・継続してこの傾向を維持し、将来にわたっての利用につなげていくこととしたい。

４　対策の例

〇県職員への情報発信（レファレンス、データベース）
〇館内見学ツアー（町内会、老人会、子供会、放課後児童クラブ等）
〇高齢者向けの講座と併せた大活字本、録音図書等の周知
〇空き施設の開放（特別資料展示室、大研修室等）

５　今後の予定

今回いただいた意見を踏まえ、次回の協議会で対策をとりまとめる。
できることから実施することとし、予算要求が必要なものは、令和６年度に予算要求を行う。